

専門高校生地域連携推進事業

1 研究開発テーマとねらい

地域社会を創造する「SAKURAステーション」プロジェクト
～地域の課題を発見し解決策を提案しよう～

生活文化科は、被服・食物・保育・福祉に関する内容を幅広く学習し、様々な年代の方々との交流を深めている。将来地域で生活する生徒が、安心して潤いのある生活を送ることができる地域づくりに貢献することは望ましいことであると考えます。そこで、学習している知識と技術をもとに、地域の課題を発見し、そこから私たちができる課題解決策を考案し、実施していきたいと考えました。さらに、子育て世帯や高齢者世帯が集う地域の交流の場「SAKURAステーション」を設け、多世代が交流できる取組の企画実施など、地域の活性化に向け、役割を担いたいと考えました。

2 研究開発の概要

地域の課題を発見するため、大垣市及び墨俣町など、本校に関連する地域の歴史と文化、商店や宿場町の調査を行う。生徒が地域課題の解決策や地域活性化に向けた取組の企画ができるように、被服・食物・保育・住居の分野の専門家から、地域資源を生かす、地域活性化の方法について講義を受ける。

1年目の活動の課題を生かし保育分野では、子育て支援センターの活動を定期的実施したり、食生活分野では、糍を使用した商品開発の経験を生かし、地域の企業と連携してお弁当やお菓子を作り販売したりするなど、積極的に地域との繋がりがもてる活動を継続する。

これらの各活動を集結し、本校が地域住民同士の架け橋となり、地域の生活課題を解決していくきっかけとなる地域交流・地域連携を高める「SAKURAステーション」を始動する。

3 令和元年度実施学科等

生活文化科 1年生80名 2年生78名 3年生76名 を対象として実施

4 研究開発内容

1) 課題発見から地域の住民が参加できる交流活動の計画と実施

- ①科目： 課題研究 生活産業基礎 子どもの発達と保育
- ②対象： 1・2・3年生
- ③目的： 大学生と共にグループワークをすることで、地域へどう視点を向けると、発見した課題を具体化し、解決することにつながるか、その手法を身に付ける。
- ④日程： 4月 SAKURA会議（地域ごとに今年度の交流活動を計画）
5月 1年生のグループ分けと計画説明
7月 岐阜大学にてフューチャーセンターの実施
（多様な人との交流ができる空間づくりを大学生に支援）
8月～12月 各地域での活動及びまとめ
12月～1月 SAKURAステーションでの交流活動



(2) 子育て支援センターとの連携

- ①科目： 課題研究・子どもの発達と保育
- ②対象： 2・3年生
- ③目的： 大垣市子育て支援の現状と課題を知り、乳幼児親子との交流を計画する。
- ④日程： 7月12日～19日 2年生
8月1日 3年生



(3) 専門家（保育・被服・食物・住居）からの講義と講習

- ①科目： 課題研究
- ②対象： 3年生
- ③目的： 地域交流で実践できる知識・技術を身につける。
- ④日程： (保育) 6月～7月 童話創作講習会
(被服) 5月～7月 染色講習会
(食物) 5月～8月 ミネラル宅配弁当プロジェクト
(住居) 5月～10月 「SAKURAステーション」始動への取組

(保育)



(被服)



(食物)



(住居)



(4) J A F 岐阜支部と連携して、反射材アイテムを使ってグッズの提案と普及活動

- ①科目： 課題研究 生活産業基礎 子どもの発達と保育
- ②対象： 1・2・3年生
- ③目的： 高齢者と子どもたちを交通事故から守るため、反射材を用いたキーホルダー等を考案・製作し、各地域の方々に配布する。
- ④日程： 7月～8月 製作
8月 穂積中学校での製作交流活動
9月 各地域での配布



(5) SAKURAステーションの始動

- ①科目： 課題研究
- ②対象： 2・3年生
- ③目的： SAKURAステーション（異世代交流会）とし、本校で異世代交流会を催す。
- ④日程： 12月18日 第1回「～伝統の皮羊羹作り&キッズルームでのお預かり～」
2月13日・14日 第2回「巾着及びランチョンマット作り&キッズルームでのお預かり」



5 研究開発の成果と課題

<まとめ>

実践活動をとおして、地域の課題を発見し、高校生の私たちにできる改善策を考え、地域の方々と共に実践活動を行うことで、地域の課題解決につながることを学ぶことができた。また、地域の方と交流することでコミュニケーション能力の大切さや情報発信の方法を学んだ。今後も地域の方々が参加しやすい異世代交流の場を企画し、地域の繋がりに貢献できるように、継続的な活動を研究、実践していきたい。